

2022年度のCO₂総排出量は4,270t-CO₂であり、前年度から396t-CO₂減少する結果でした。項目別のCO₂排出量では、⑤LPガスで増加、⑥電気などのその他の項目では減少が見られました。

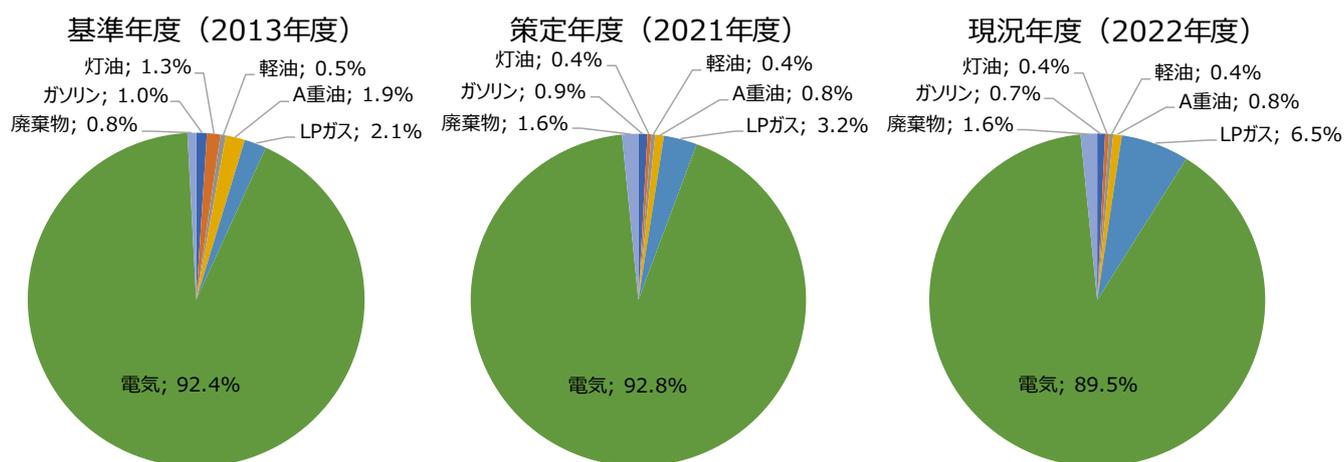
CO₂排出量の構成比は、⑥電気が89.5%と最も多く、次いで⑤LPガスが6.5%、その他の項目は1%程度でした。2021年度と比較すると、⑤LPガスの割合が増加していますが、その他の項目については概ね同様の割合となっています。

表 1 各算定項目の使用量・焼却量及びCO₂排出量

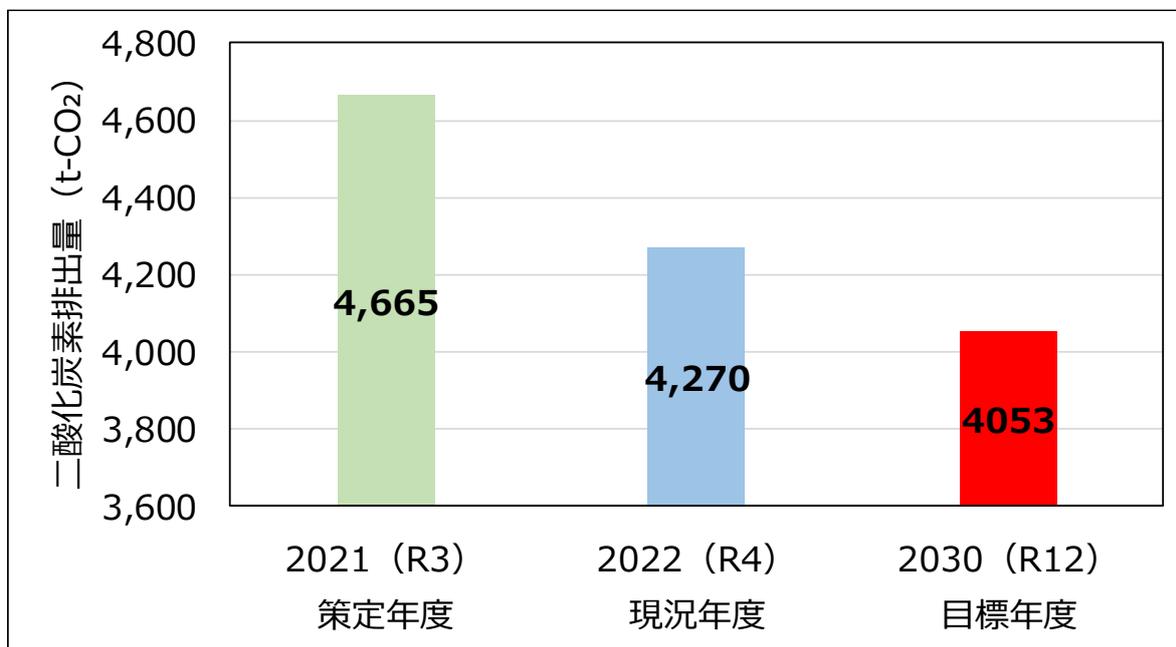
算定項目		CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)			
		2013年度 (基準年度)	2021年度 (策定年度)	2022年度(現況年度)	
				排出量	2021からの増減
燃料の使用	①ガソリン	83	40	32	-8
	②灯油	104	17	16	-1
	③軽油	42	18	17	-1
	④A重油	150	39	35	-4
	⑤LPガス	171	150	279	+130
他人から供給された電気の使用	⑥電気	7,489	4,328	3,822	-506
一般廃棄物の焼却	⑦焼却	67	73	68	-5
合計		8,106	4,665	4,270	-396

※1 CO₂排出量は、整数で示しているため、合計値が合わない場合があります。

※2 2022年度の⑦焼却による排出量は暫定の結果を示しています。

図 1 CO₂排出量の構成比

2022年度の総排出量は4,270t-CO₂であり、策定年度から減少する結果となっています。2030年度の目標達成に向け、今後も引き続き取組実施に努め、電気・燃料使用量の削減を図っていくことが必要となります。



※2030年度の二酸化炭素排出量は、目標値を示しています。

図 2 二酸化炭素排出量の推移と2030年度の目標値

事務事業では、排出量削減への取組として、グリーン購入やエアコン設定温度の緩和等の継続的な実施に加え、電気自動車の導入を行いました。

今後さらなる排出量削減に向け、研修やポスター掲示を通じた意識啓発、市有建築物や公用地への太陽光発電導入の積極検討、公用車の使用抑制・効率化等に取り組んでいく必要があると考えられます。

表 2 削減目標達成に向け2022年度に取り組んだ内容

取組方針	実施内容
事務事業の横断的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・設備管理台帳の作成（各施設の運用状況等を整理） ・グリーン購入の推進（紙類、文具類等） ・3Rの推進によるゴミ焼却量の減少の推進
建築物に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物における省エネルギー対策の徹底（エアコン設定温度の緩和） ・LED照明の導入
公用車に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・燃費性能の優れた輸送用機器の使用（電気自動車を1台導入）
公用地での取組	-